



まったく
新しい作用性で、
やっかいな害虫も
見逃さない！

モベント[®]
フロアブル



新しい効き目、で、行き場なし。

難防除害虫に安定した効果

幅広い吸汁性害虫に有効

優れた浸透移行性と長期の残効性

1製剤で2つの使い方

適用害虫と使用方法

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用 時期	使用 方法	使用回数*	
						本剤	スピロテトラマト
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類 トマトサビダニ	2,000	100~300 ℓ/10a	前日*	散布	3回	3回
なす ピーマン とうがらし類	アブラムシ類 コナジラミ類	500	50ml/株 25~50 mℓ/株	育苗期後半 ~定植当日	灌注	1回	3回 (灌注は1回)
	アザミウマ類 チャノホコリダニ ハダニ類						
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	2,000	100~300 ℓ/10a	前日*	散布	3回	3回 (灌注は1回)
	アザミウマ類 ハダニ類	500	50ml/株 25~50 mℓ/株	育苗期後半 ~定植当日	株元 灌注	1回	
	アブラムシ類 コナジラミ類						
ズッキーニ	コナジラミ類	2,000	100~300 ℓ/10a	前日*	散布	3回	3回
ばれいしょ はくさい	アブラムシ類	4,000					
キャベツ	アザミウマ類 コナガ	2,000		7日*			
	アブラムシ類	2,000~ 4,000					
ブロッコリー レタス	アザミウマ類	2,000		14日*			
非結球レタス	アブラムシ類	2,000~ 4,000		前日*			
アスパラガス	アザミウマ類 コナジラミ類 ハダニ類	2,000		14日*			
てんさい	アブラムシ類	2,000~ 4,000		14日*			

▲:散布、ただし花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用して下さい。

※1:みょうが(花穂)の収穫前日まで。ただし、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで。

※2:摘花後~球根掘り前まで。

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前日数と本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

2020年5月現在の登録内容

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用 時期	使用 方法	使用回数*			
						本剤	スピロテトラマト		
メロン すいか	アブラムシ類 コナジラミ類	2,000	100~300 ℓ/10a	前日*	散布	3回	3回 (灌注は1回)		
	アザミウマ類 ハダニ類	500	50ml/株	育苗期後半 ~定植当日	灌注	1回			
	アブラムシ類 コナジラミ類		25~50 mℓ/株						
かぼちゃ	アブラムシ類 コナジラミ類 ハダニ類	2,000	100~300 ℓ/10a	7日* 前日*	散布	3回	3回		
いちご	アブラムシ類 コナジラミ類	500	50ml/株 25~50 mℓ/株	育苗期後半 ~定植当日	灌注	1回	3回 (灌注は1回)		
	アザミウマ類 ハダニ類								
	アブラムシ類 コナジラミ類								
なし	ニセナシサビダニ	2,000	200~700 ℓ/10a	14日* 7日*	散布	3回	3回		
りんご	アブラムシ類 カイガラムシ類 ハダニ類								
	リンゴサビダニ								
かんきつ	カイガラムシ類 ミカンサビダニ ミカンハダニ アザミウマ類 チャノホコリダニ								
かき ぶどう	アザミウマ類 カイガラムシ類								
もも ネクタリン 小粒核果類	アブラムシ類 ハダニ類 カイガラムシ類								
おうとう	ハダニ類								
みょうが(花穂)	アブラムシ類							前日*	▲
みょうが(茎葉)	アブラムシ類							※1	散布
にんにく	チュウリップ サビダニ							4,000	
チュウリップ	サビダニ	※2							

上手な使い方

- 害虫の発生初期に散布することで長期間密度抑制効果が期待できます。
- 成虫への効果は弱いので、殺成虫効果の高い薬剤との併用がおすすめです。
- 吸汁阻害効果はないので、ウイルス感染阻止効果は期待できません。
- 灌注処理での使用時期「育苗期後半~定植当日」のうち、「定植3日前から当日処理」が最も本剤の性能を発揮できる処理時期です。
- ミツバチは、灌注処理後および散布翌日放飼が可能です。

使用上の留意点

- マルハナバチに影響があるので、本剤使用後は他の方法(人工授粉、植物ホルモンなど)で受粉作業を行って下さい。
- いちごでチリカブリダニおよびミヤコカブリダニを使用する栽培場面では、灌注、散布いずれも、チリカブリダニは処理後35日以上、ミヤコカブリダニは処理後30~35日程度の間隔をおいて放飼して下さい。
- スワルスキーカブリダニを使用する栽培場面では灌注、散布いずれも処理後、20~30日程度間隔をおいて放飼して下さい。
- 軟弱徒長苗や極端にステージの若い苗(セル苗、プラグ苗)に灌注や株元灌注すると薬害を生じるおそれがあるので、本剤の使用はさけて下さい。きゅうりに株元灌注する場合には、薬液が新芽にかかると縮葉等の薬害を生じる場合があるので、かからないように処理して下さい。
- なすにおける機能性展着剤との混用は、混用する機能性展着剤によって薬害を生じるおそれがあるので、事前に確認してから使用して下さい。
- はくさいに使用する場合には、曇天および夕刻等の散布後に葉面上の薬液が乾きにくい条件で薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 最高分げつ期から出穂開花期の稲に本剤がかかると不稔などの薬害を生じる場合があるので、かからないように注意して下さい。
- 蚕に対して長期間毒性があるので、周辺の桑葉にかからないようにして下さい。
- 本剤の同一圃場での連続散布はさけ、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行って下さい。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗して下さい。
- 本剤使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換して下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 <https://cropsience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078

9:00~12:00, 13:00~17:00
土・日・祝日を除く

F-1053 20.05.TA